

た見守り事業は、整備後、毎年多くの視察を受け入れ、国からも先進的な取組として評価を受けています。今後ICT(情報通信技術)を活用した高齢者支援を、積極的に推進していく所存です。



▲高齢者を支援するコールセンター

介護保険事業では、現在国において制度の見直しを検討されていますが、平成二十七年

度から保険料額も見直されることから、雲南広域連合での介護保険事業計画の策定に合わせ、本町でも老人福祉計画を見直す予定です。

この中で、特に地域医療・介護の一体的なサービス提供体制の構築など、要介護者が

スポーツ振興

ホッケー競技は、全国トップレベルの競技力を誇っており、小・中学校、横田高校、セルリオ島根の競技力維持・向上のために必要な支援を引き続き行います。

また、今年八月には、本町を会場に全国から小学生高学年児童の男女約五十チームが集い、第三十六回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会が開催されます。

選手、役員、保護者を含め、千人を超える来町者を迎え盛大に実施されるので、町民の皆様のご協力とご声援をよろしくお願いします。

そのほか、伝統と歴史のある町体育協会の陸上・剣道などの競技力の向上、健康づくりを目的とした奥出雲スポーツクラブの充実など、幅広く生涯スポーツの普及・振興に努めます。

文化・芸術の振興

引き続き、地域の活性化と文化の薫り高い町を目指し、

地域で安心して生活できる体制整備はもとより、要介護の防止策についても検討します。また、認知症高齢者の増加に対し、医療連携や相談体制の充実はもとより、今後は認知症高齢者の家族の皆様への支援を重点的に進め、認知症になっても地域で支えあい、安心して生活できる環境を早期に実現したいと考えています。

そのほか、障がい者福祉施策として、新たに配食サービスを実施するほか、対象者全員への提供が義務づけられた「サービス利用計画」や、次期「障がい福祉計画」の策定を予定しています。

これらによる相談体制の充実、新たな支援事業の検討や必要な施設整備を進め、障がい者が、生まれ育った地域社会で暮らせるような環境整備を目指します。

健康づくり

現在、高齢者ができるかぎり介護を必要とせずに、自立して健康で穏やかな生活が送れる期間である「健康寿命」の延伸や、生活習慣病の予防を図ることが求められています。

町文化協会等による音楽団体との交流や芸術鑑賞のほか、町内の幼稚園・小・中学校の校歌や郷土音楽の調査・保存を推進します。

また、幼児から一般成人までを対象とした論語素読の普及や啓発活動も、継続的に実施します。

そのほか、年度末に完成予定の太鼓や神楽などを実演披露する郷土芸能施設は、美肌温泉郷との連携や各種団体による多面的な活用により、有効利用が図られるものと期待しています。

奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観

三月中旬に、文部科学大臣から「奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観」が文化財の選定を受ける予定であり、風土記時代から世界で唯一継承されている「たたら製鉄」は、地域活性化資源として非常に価値の高いものです。

来年度は、整備活用計画を策定し、案内看板の設置、景観保全、さらに棚田で生産される仁多米コシヒカリのプレミアム化を推進し、たたら製鉄に起因する重要な文化的景観

す。そのため、町内の各事業所へも協力をお願いし、「奥出雲町げんきプラン21推進計画」を全町で推進したいと考えています。

また、少子化対策、子育て支援の一環として、不妊治療費の助成や妊婦健診の実施、ロタ・おたふくかぜ・水ぼうそう等の任意予防接種の実施を継続して行います。

さらに、各種がん検診や脳ドックの経費助成により、疾病の早期発見を推進し、健康づくりを積極的に展開します。

国民健康保険事業

本年一月一日現在、本町の国保加入世帯数は千九百九世帯で、町全体の三十八・七%、被保険者数は三千二百五十五人で総人口の二十三%と、依然多くの方が加入されています。

しかし、後期高齢者医療制度の創設以降も、六十五歳から七十四歳の被保険者が四十四・一%を占めるなど、高齢者や所得の少ない方の比率が高く、国保財政は一層厳しさを増しています。また、運営主体が都道府県

を、本町の誇りとして全国に情報発信します。



▲重要文化的景観に選定答申された大原新田

新エネルギー施策と環境対策

森林所有者が、自ら間伐材を木の駅(森林組合集積場)に持ち込み商工会商品券に引き換える、「おろちの深山きこりプロジェクト」を、来年度も引き続き実施します。

また、仁多発電所は、電力の固定価格買取制度の活用により安定的・継続的な運営を図るため、今年度手続きが完了した設備認定に基づき、来年度は施設の大規模改修工事に着手します。阿井地区川東水路を利用した農業用小水力発電事業につ

へ移行されるなど、社会保障改革が推進されようとしており、今後、その改革については国の動向を注視しなくてはならない状況です。

来年度の国保会計の当初予算は、医療費を中心に対前年度比で〇・九パーセント減の十六億五千五百万円としていますが、具体的な税率や均等割の額は、国保運営協議会での審議の後、六月定例議会に提案します。

教育の充実

ここ奥出雲町でしか体験できない「たたら体験学習」や小学五年生全員参加による「吾妻山合同キャンプ」、また、学校と公民館が連携したふるさと教育を継続します。

また、新規事業として、来年度から三年間、県の「運動好きな子どもを育てるプロジェクト」の指定を受け、家庭・地域と学校などが連携し、子どもの体力向上を図ることとしていきます。

さらに、両中学校区の教職員による自発的な会である「教育を語る会」を支援するなど、幼保小中学校が連携する事業を積極的に推進し、学

校間の交流促進や地域資源を活用した特色ある教育、教育効果を高める各種支援に努めます。そのほか、学力向上や特別支援教育、読書活動、ふるま



▲たたら体験学習

なお、横田高校の魅力化・活性化につきましては、新たに発足する「特別委員会」などの活動を支援するとともに、JR通学生に対する通学費の助成などを、町独自で実施します。各地区公民館については、

いは、先頃、施設の実施設計委託業務を発注・契約したところとす。

なお、農業用水利施設を利用した小水力発電設備等の導入に対する補助金が来年度から県で創設され、本町の事業も採択予定となり、建設コストの圧縮が可能となりました。今後の発電所運営の円滑化が図られるとともに、それを財源とした土地改良施設等の維持管理にも大きく貢献するものと期待しています。

来年度は、用地買収のほか、「水車」や「発電機」の発注等を予定しており、これらに要する経費を今般特別会計に予算計上しました。

そのほか、三沢発電所についても、JA雲南より施設の譲渡を受け、大規模改修に向けた調査・設計業務を、来年度実施することとしています。

今後、本町の豊富な森林資源と未利用資源を活用し、エネルギーの地産地消を推進するとともに、小水力発電などを含めた持続的・安定的な循環型社会の実現を目指します。



▲JA雲南から譲渡予定の三沢発電所

活力ある奥出雲を目指して

ソチオリンピックでは、多くの日本人選手たちが活躍しました。

フィギュアスケートの浅田選手のフリーの演技は自己ベストを記録し、日本のみならず、世界の人々に大きな感動を与え、「失敗しても最後まであきらめず、できることを精一杯やり遂げる」ことの素晴らしさ、大切さを改めて感じました。

現在の社会・経済情勢は極めて厳しい状況ではありますが、私も町政発展のため、粘り強く「笑顔と語り」の実現に取り組んで参ります。